

2017年度 第45期

第2四半期決算報告書

平成 29 年 1 月 1 日～平成 29 年 6 月 30 日



株主の皆様へ

第2四半期連結業績概要

前年同期	当第2四半期
売上高	55.4 億円 ▶ 51.2 億円 (-7.5%)
営業利益	10.2 億円 ▶ 7.3 億円 (-28.0%)
経常利益	10.3 億円 ▶ 7.6 億円 (-26.2%)
第2四半期純利益	7.5 億円 ▶ 5.6 億円 (-25.4%)
1株当たり第2四半期純利益	111.7 円 ▶ 83.4 円 (-25.4%)
総資産	128.1 億円 ▶ 139.3 億円 (8.7%)
純資産	111.4 億円 ▶ 122.1 億円 (9.6%)
1株当たり純資産	1,650 円 ▶ 1,809 円 (9.6%)

※子会社は、9ページをご覧ください。

ごあいさつ

株主の皆様には、日頃より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。第45期(平成29年12月期)第2四半期決算報告書をお届けするにあたり、当社グループの業績概要についてご報告申し上げます。

当第2四半期の当社グループを取りまく経営環境は、前期から続く円高基調と共に、国内市場では前期に比して大型プロジェクトが減少し、国内売上は減収となりました。海外市場では、海外政治情勢が不安定であることなど先行きに不透明感が依然として残るものの、中国市場は前期に引き続き放送市場での設備投資があり、その他アジア地域も堅調に推移しております。また、欧米拠点の再構築により、海外市場の売上高は増加しましたが、国内市場の落ち込みをカバーできるまでにはいたっておりません。そのような中、当社グループは、光製品や電子機器の新製品普及活動、AVコンソール製品などの販促活動を積極的におこなうと共に、製造コストダウンや品質向上を図るなど収益性の改善と顧客満足度の向上に努めてまいりました。この結果、売上高51.2億円(前年同期比7.5%減)、経常利益7.6億円(前年同期比26.2%減)で減収、減益となりました。中間配当金は、23円とさせていただきます。

下半期(7月～12月)は引き続き円高基調が進むと予想されるものの、欧米市場のさらなる改善、中国市場の伸張、国内市場の中小プロジェクトの増加等により、売上高の回復を見込んでおります。

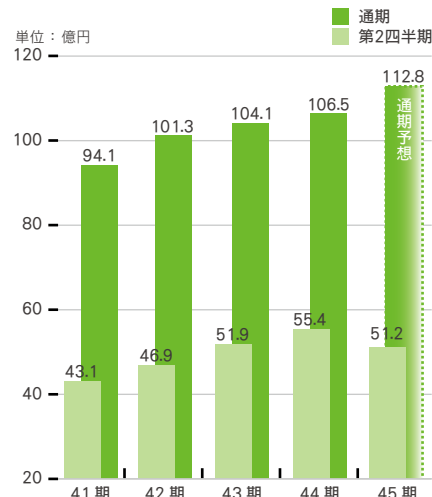
株主様におかれましては、今後ともご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成29年9月
カナレ電気株式会社
代表取締役社長
大野 淳一郎



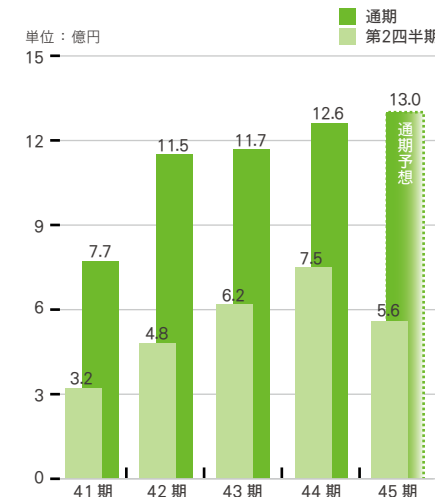

連結業績推移

売上高

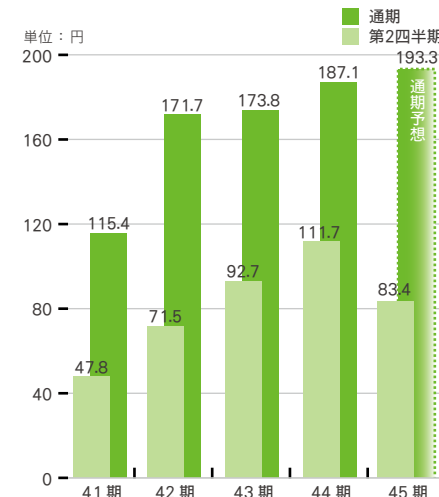


<ご注意>通期予想は、現在入手可能な情報を基に慎重に策定しておりますが、さまざまな要因の変化から、実際とは大きく異なる可能性があります。予めご承知ください。

純利益



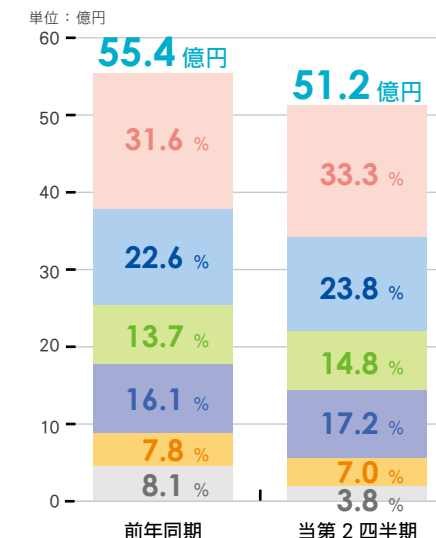
1株当たり純利益



製品別の状況

	前年同期	当第2四半期
ケーブル 同軸ケーブル 光カメラケーブル など	17.5 億円	17.0 億円 (-2.6%)
ハーネス コネクタ付き接続ケーブル など	12.5 億円	12.2 億円 (-2.7%)
コネクタ BNCコネクタ DINコネクタ など	7.6 億円	7.5 億円 (-0.4%)
パッシブ機器 AVコンソール製品 ビデオバッチ盤 など	8.9 億円	8.8 億円 (-1.0%)
電子機器 光コンバータ など	4.3 億円	3.6 億円 (-16.8%)
その他 他社購入品 など	4.4 億円	1.9 億円 (-56.3%)
合計	55.4 億円	51.2 億円

■ 構成比



Q1 第2四半期の状況を教えてください。

A. 国内市場停滞の要因は、前期の放送市場においては、テレビ東京（2.2億円）、中京テレビ（2.8億円）の新局舎大型プロジェクトがありました。第45期は中小プロジェクトが主流のため、売上高が前年同期比で84.6%に落ち込みました。しかしながら、電設市場は、前年同期並みの水準を保っております。海外市場に関しましては、中国市場は

持ち直しを見せ前年同期比で5.4%増、その他欧米、韓国市場の改善、ロシア地区の緩やかな回復基調、その他アジア地区、インド市場の積極的な営業活動により、売上高は前年同期比5.9%増となりました。このように、国内市場が苦戦するなか、売上高は51.2億円（前年同期比7.5%減）と下回りました。

Q2 UAE拠点設立の進捗状況と今後の展開は？

A. UAE拠点につきましては、現在、ドバイのDAFZA（空港）のフリーポートにて設立準備中で8月には営業を開始できる予定です。まずは、責任者1名（エジプト人）、内勤者1名（日本人）の2名体制でスタートし、状況に応じてさらに増員・拡充していきます。重点活動先は、UAE、サウジ

アラビア、イラン、クエート、トルコ、（カタール）にて活動を予定しておりますが、カタールにつきましては、近郊国との断絶の影響もあり、活動方針を思案中です。ターゲット市場は、放送、イベントプロジェクト（ワールドカップ、EXPOなど）を主体に順次新規市場へと拡大していきます。

Q3 下半期に取り組むべき課題は？

A. 国内市場は下半期は回復傾向にあり、海外市場も中国では経済状況の回復が予想され、その他地域も積極的な営業活動の展開および改善により、売上高に寄与していくと予想しております。また、UAE法人も下半期にはスタートする方向で進めており、更なる地域密着型営業により販売活動強化を図ってまいります。



現地 責任者 に聞く

Canare Europe GmbH
Tomasz Kolaczyk さんに聞きました。



Q1. EU拠点再編成、どこに主眼を置いた活動をしますか？

A. まず、顧客とのコミュニケーションをより活発に行います。直接的な情報発信や対話がとても大事だと考えています。カナレの紹介や商品説明を通じて、顧客の要望を理解することができるからです。価格だけではなく、品質やサポートは、放送エンジニアにとって重要な採用ポイントです。ブロードキャストエリアでの30年の経験を活かし、カナレ製品の優位性を伝えていきます。次に大切な点は、デリバリーの改善です。2015年に閉鎖したカナレフランスには倉庫機能がありませんでした。私自身以前カナレの顧客だったのでよく分かるのですが、日本からの高額な運賃に加え、通関や輸入手続きを自分たちで行うのはとても煩雑な作業です。納期に関しても同じことが言えます。したがって、製品自体には競争力があっても、やむなくローカルメーカー製品を採用せざるを得ない状況がありました。ドイツでの再出発にあたり、サプライチェーンの改善は必須と考えていました。ドイツ、デュッセルドルフはヨーロッパの中心に位置し、利便性の高い都市です。積極的な営業活動と物流の最適化。カナレの新しいIEU拠点としてこれほど最適な街はありません。

Q2. 上半期の業績結果および市場の動向

A. 上半期の業績見通しは約45万ユーロを見込んでいます。昨年同期は約50万ユーロでしたので10%程度下回っています。しかし、5月以降徐々に好転しつつあり、下半期にかけてもポジティブな見通しです。カナレにとっては放送用光カメラケーブル製品に大きなポテンシャルがあります。既にドイツやイタリアのSystem Integrator（以下SI）からスタジオカメラシステム向けとして受注を集めています。SIのビジネスはヨーロッパだけでなく中近東やアフリカに拡大しているところが昨今の特徴で、今後もその傾向が高くなるようです。もう一つの好材料は、4K UHD TV（4K ウルトラハイビジョン）の需要の高まりです。先ごろリリースした12G-SDI用の同軸ケーブルがオーストリアの顧客から受注となり、現在テスト運用されています。9月に開催されるIBC（International Broadcasting Convention ヨーロッパ最大の放送機器展）ではカナレの4Kソリューションを展示できる予定なので、とても楽しみにしています。

Q3. 下半期予想と今後の予想

A. 下半期60万ユーロ、最終的には年間110万ユーロの売上を予想

しています。ドイツは未開拓のエリアでしたが、ポテンシャルの高い国です。積極的にコンタクトを増やし、ストックディストリビューターやSI、エンドユーザの開拓を進めます。ヨーロッパではいたるところでサッカーなどのスポーツ中継が行われています。その為、OB-VAN（放送中継車）ビジネスが盛んで、番組制作プロダクションやトラックビルダーと呼ばれる中継車を中心とした経験豊かな会社がたくさんあり、カナレにとっては大きなチャンスです。特に光カメラ接続ケーブルは、スイス製のコネクタが市場を独占しており、我々が最も注力すべき分野と考えています。

製品シェアを高めるために、1) 販促キャンペーン、2) パートナー企業拡大、3) 希望納期完全対応 この3つに取り組んでいます。

1) 販促キャンペーン

カナレには、光カメラケーブルチェッカーというエンドユーザに訴える製品があります。その製品を活かし、新EU拠点開設を記念した販促キャンペーンを実施しています。

2) パートナー企業拡大

光カメラ接続ケーブルの加工に際し、認定業者制度を導入しています。これは品質を維持し適切なサービスを提供するために大切なことです。今後このビジネスを拡大するにあたり、各地域の業者開拓が重要です。光カメラ接続ケーブルのメンテナンスや修理のために、わざわざ日本に送る手間を省き、柔軟に対応することができます。イタリア、フランスに続き、ドイツ、ポーランド、イギリスに向けて順次認定作業を進めています。

3) 希望納期完全対応

ケーブルは欧米系の大手メーカーが圧倒的なシェアを持っています。しかしながら、光カメラケーブルのような特殊ケーブルを2～3週間以内に納品できない場面が多々あります。我々は顧客とのコンタクトを増やしていく中で、いかに顧客が困っているかを見てきました。カナレにとってこれらの需要を取り込むことは容易で、将来のビジネス拡大にも有効と考えています。ここ数ヶ月で数千メートル単位の成約を2件得られました。この背景には、もちろん日本本社の素晴らしいサポートがあってこそ実現できたものです。カナレはヨーロッパでも、クオリティーの高い製品として有名です。このブランドイメージをうまく活用し、現地に根ざしたビジネスを展開することで、5年後には5ミリオンユーロ（約6億円）を目指し活動します。

第2四半期連結財務諸表

第2四半期連結貸借対照表の要旨

(単位 千円)

資産の部	第2四半期 2017.6.30	前年同期 2016.6.30	負債の部	第2四半期 2017.6.30	前年同期 2016.6.30
流動資産	11,395,565	10,656,591	流動負債	1,408,561	1,382,836
現金および預金	7,739,477	6,758,374	買掛金	538,114	505,440
受取手形および売掛金	1,233,013	1,538,418	未払金	126,941	106,442
棚卸資産	1,948,871	1,873,268	賞与引当金	80,752	74,541
繰延税金資産	188,782	201,521	役員賞与引当金	26,890	30,939
1 その他	294,585	289,201	3 その他	635,863	665,471
貸倒引当金	▲ 9,165	▲ 4,192	4 固定負債	315,297	295,586
固定資産	2,541,484	2,162,993	長期未払金	-	1,693
有形固定資産	1,234,985	1,208,643	退職給付に係る負債	11,196	8,437
建物および構築物	216,993	228,120	役員退職慰労引当金	65,103	59,418
機械装置および運搬具等	246,207	216,651	4 その他	238,997	226,037
土地	771,783	763,870	純資産の部	第2四半期 2017.6.30	前年同期 2016.6.30
無形固定資産	130,827	113,713	株主資本	12,128,326	11,378,903
2 投資およびその他の資産	1,175,672	840,636	資本金	1,047,542	1,047,542
			資本剰余金	1,175,210	1,175,210
			連結剰余金	10,241,174	9,491,664
			自己株式	▲ 335,601	▲ 335,514
			評価・換算差額等	84,864	▲ 237,741
			その他有価証券評価差額金	123,437	28,896
			繰延ヘッジ損益	▲ 17	-
			土地再評価差額金	▲ 371,051	▲ 371,051
			為替換算調整勘定	332,495	104,413
資産合計	13,937,050	12,819,584	負債・純資産合計	13,937,050	12,819,584

- point 1** 加工委託先への有償材料など 135百万円
- point 2** 投資有価証券 955百万円
- point 3** 未払法人税など 218百万円

- point 4** 繰延税金負債 199百万円
- point 5** 受取利息・配当金 15百万円
- 投資事業組合運用損 6百万円

- point 6** 投資事業組合運用損 2百万円
- 賃貸原価 1百万円
- point 7** 投資有価証券売却益 40百万円

第2四半期連結損益計算書の要旨

(単位 千円)

科目	第2四半期 2017.1.1~6.30	前年同期 2016.1.1~6.30
売上高	5,127,849	5,545,695
売上原価	2,964,010	3,121,474
売上総利益	2,163,839	2,424,221
販売費および一般管理費	1,425,021	1,397,851
営業利益	738,817	1,026,369
5 営業外収益	33,307	35,573
6 営業外費用	8,374	26,665
経常利益	763,750	1,035,277
7 特別利益	40,737	30,221
特別損失	-	-
税金等調整前 第2四半期純利益	804,488	1,065,499
法人税、住民税および事業税	232,791	361,139
法人税等調整額	8,786	▲ 50,008
第2四半期純利益	562,910	754,368

第2四半期連結キャッシュ・フロー

(単位 千円)

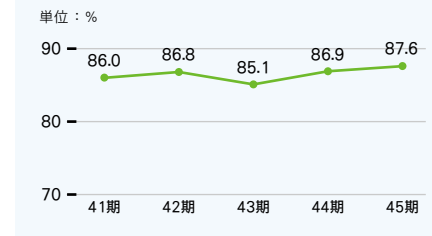
	第2四半期 2017.1.1~6.30	前年同期 2016.1.1~6.30
8 営業活動によるキャッシュ・フロー	632,312	496,415
9 投資活動によるキャッシュ・フロー	▲ 117,469	46,385
10 財務活動によるキャッシュ・フロー	▲ 168,738	▲ 148,490
現金および現金同等物に係る換算差額	▲ 12,413	▲ 154,708
キャッシュ・フロー計	333,690	239,602

- point 8** 税引前純利益 804百万円
- 仕入債務の減少 ▲48百万円
- 売上債権の減少 299百万円
- 法人税等の支払額 ▲379百万円

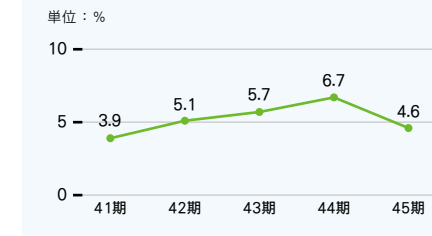
- point 9** 定期預金の払戻による収入 27百万円
- 投資有価証券の取得による支出 ▲100百万円
- 投資有価証券の売却による収入 71百万円
- 固定資産の取得による支出 ▲83百万円

- point 10** 配当金の支払額 ▲168百万円

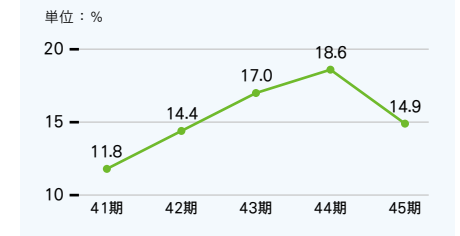
自己資本比率 (第2四半期連結)



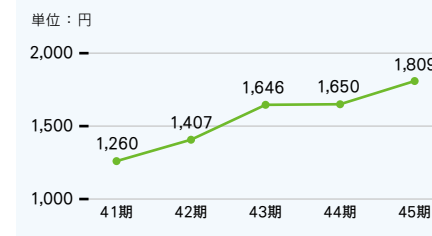
自己資本純利益率 (ROE/第2四半期連結)



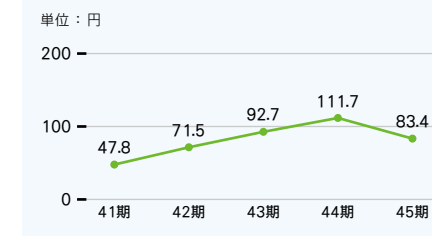
売上高経常利益率 (第2四半期連結)



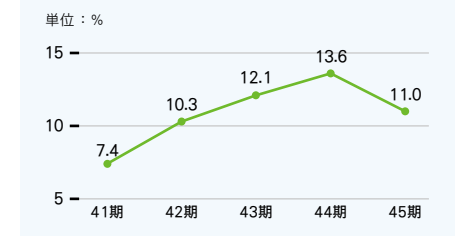
1株当たり純資産 (第2四半期連結)



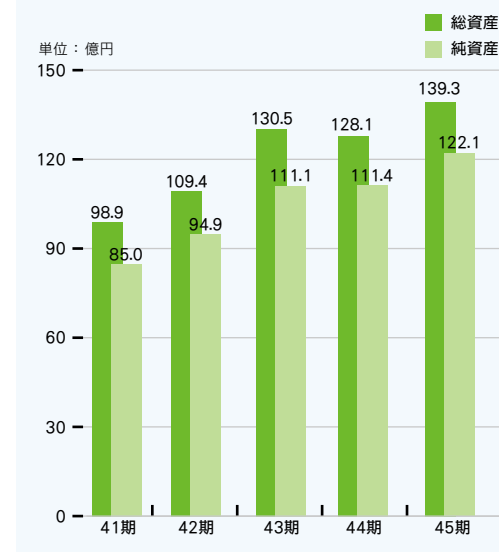
1株当たり純利益 (第2四半期連結)



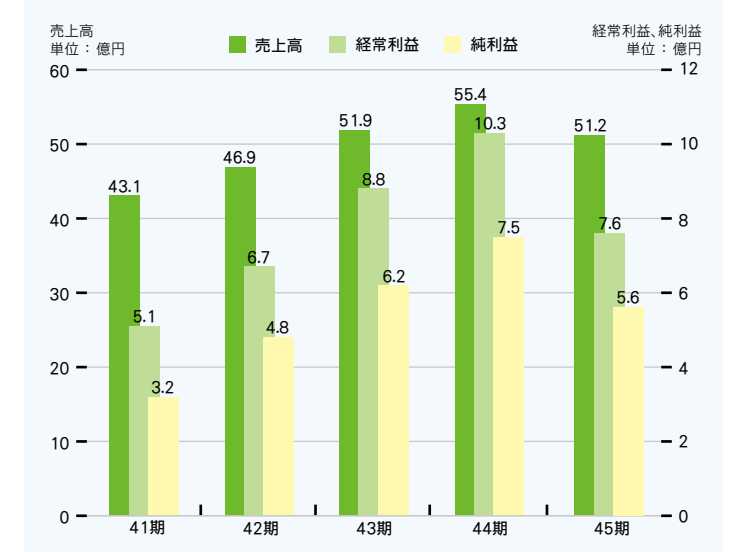
売上高純利益率 (第2四半期連結)



財産状況推移 (第2四半期連結)



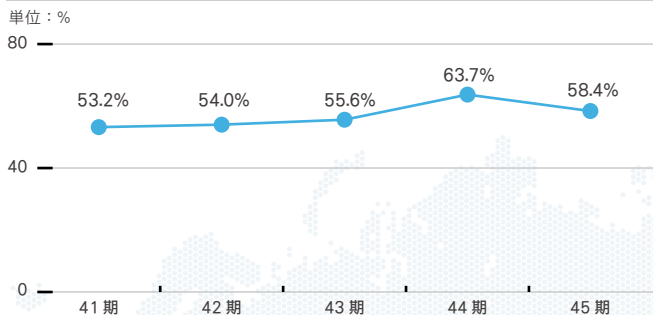
業績推移 (第2四半期連結)



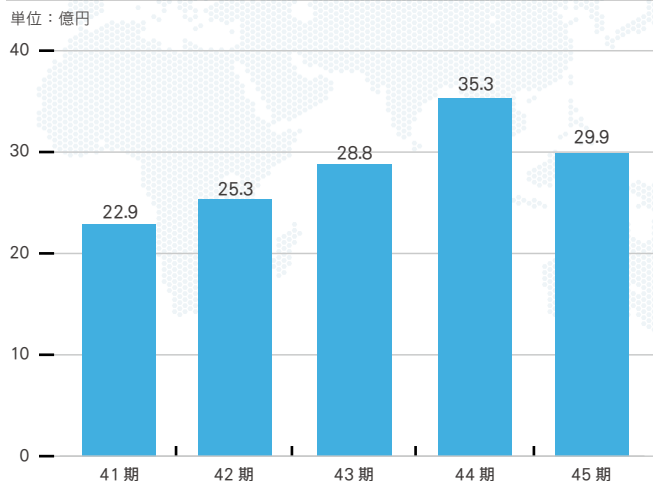
市場別売上高・構成比推移

国内市場

■ 構成比



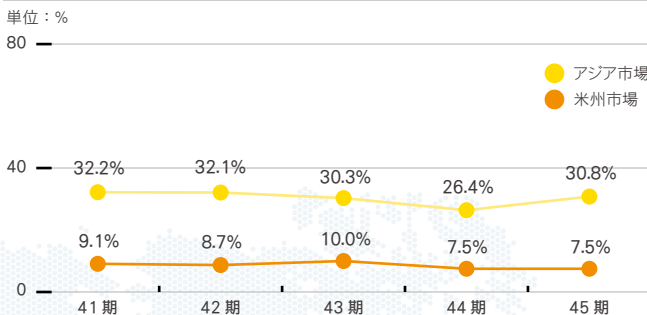
■ 売上高



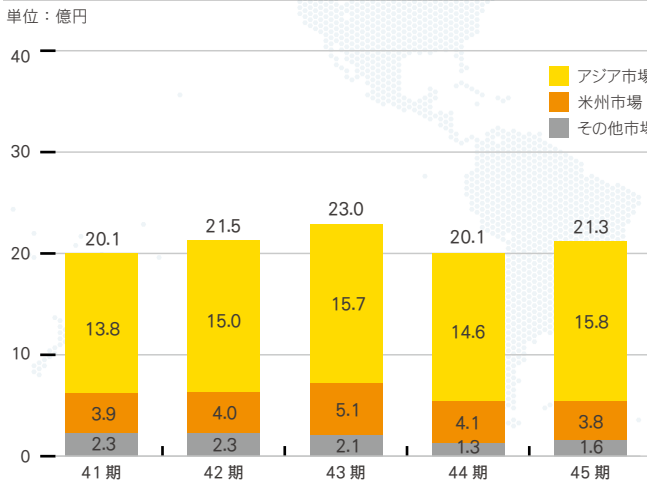
前年同期に比して放送市場などの大型物件の注文が減少したことに加え、電子機器・AVコンソール製品の販売減少により、売上高は前年同期比25.3%減になりました。

海外市場

■ 構成比



■ 売上高



欧米は人員を増員し、販促活動を強化してまいりましたが、売上高は減少。中国などアジア地域は放送市場の需要増により売上高が堅調に推移した結果、海外売上高は前年同期比5.9%増となりました。

株式の状況 (2017年6月30日現在)

発行可能株式数 23,092,200 株

発行済株式の総数 7,028,060 株
(内 自己株式数 278,514 株)

単元株式数 100 株

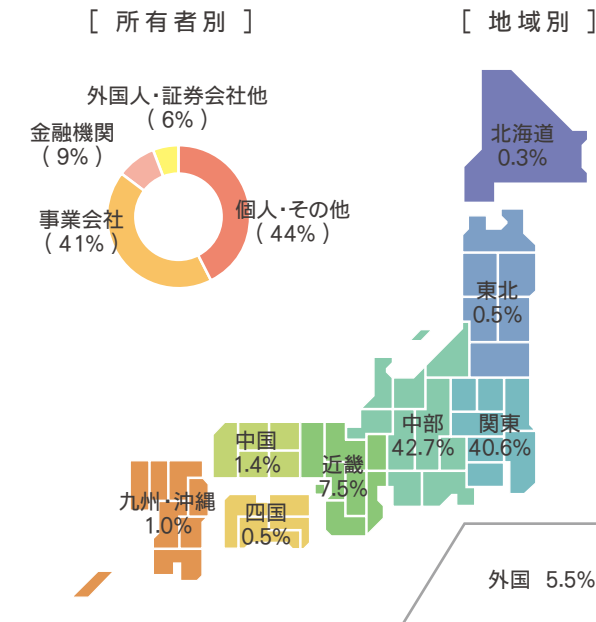
株主数 8,475名
(前第2四半期末比 518名減少)

大株主

株主様名	所有株式数 (単位 千株)	出資比率 (単位 %)
有限会社香流	800	11.3
株式会社新高輪	800	11.3
株式会社センリキ	350	4.9
川本公夫	300	4.2
カナレ電気株式会社 (自己名義)	278	3.9
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	237	3.3
加藤宣司	200	2.8
川本重喜	200	2.8
株式会社ノダノ	200	2.8
合同会社カワシマ	200	2.8

●所有株式数は千株未満を、出資比率は小数点第2位以下を切り捨てて表示しております。

株主様分布 (議決権個数の割合による)



株主優待

カナレ電気の株主優待制度

基準日現在の株主名簿に記載され、かつ100株以上を保有されている株主様へ半期ごとに株主優待品を贈呈いたします。

同封いたしましたので、ご確認ください。



(クオカード)

決算日	保有株式数別 優待		お届け時期	贈呈方法
	100株以上 200株未満	200株以上		
2017年 6月30日	クオカード 1,000円分	クオカード 2,000円分	今回同封	「第2四半期決算報告書」に同封
2017年 12月31日			2018年 3月中旬(予定)	「株主総会決議通知」に同封

会社概要

会社概要 (2017年6月30日現在)
商号 カナレ電気株式会社
本社 神奈川県横浜市港北区新横浜2-4-1 新横浜WNビル4F
 (登記上の本社 愛知県日進市藤枝町)
設立 昭和49年(1974年)2月 (創業:昭和45年)
資本金 10億4,754万円
従業員数 100名 / グループ: 254名
 (パート、派遣社員は含まず)
事業所 新横浜本社、名古屋本社、横浜事務所、名古屋営業所、
 大阪営業所、福岡営業所、光デバイス開発部

子会社

- | | |
|--|---------------------------------------|
| 1 カナレハーネス株式会社 | 7 Canare Singapore Private Ltd. |
| 2 Canare Corporation of America | 8 カナレシステムワークス株式会社 |
| 3 Canare Corporation of Korea | 9 株式会社カナレテック |
| 4 Canare Corporation of Taiwan | 10 Canare Electric India Private Ltd. |
| 5 Canare Electric (Shanghai) Co.,Ltd. | 11 Canare Europe GmbH |
| 6 Canare Electric Corporation of Tianjin | |



※子会社の記載順序は設立順です。

取締役および監査役

代表取締役社長 大野 淳一郎
取締役 後藤 晃男
取締役 吉森 直樹
取締役 中島 正敬
取締役 小淵 敦
取締役 祖父江 秀行
取締役 野田 爾
取締役相談役 尾羽瀬 正夫

社外取締役 豊中 俊榮
社外取締役 戸田 裕三
常勤監査役 小野 地佳文
監査役 財田 洋一
監査役 田中 耕一郎

IR情報に関するお問い合わせ先
 小淵 敦 TEL 045-470-5503(代)

大型映像装置

映像用光コンバータ
 ハイビジョン映像の光伝送システムに採用される光コンバータ。

制御用光コンバータ
 大型映像装置を制御するための光コンバータ。

接点光コンバータ
 大型映像装置のON・OFFなどのスイッチ信号を伝送する光コンバータ。

照明

DMXケーブル
 舞台照明、スタジオ照明機器用の制御ケーブル。

スピーカ

スピーカケーブル
 電磁妨害問題を解決したスピーカケーブル。

マイク

マイクケーブル
 ノイズレベルを低減できるマイクケーブル。

現在、さまざまな野外コンサートで
 カナレの製品は活躍しております。

中継車内

Active BNC
 高精細4Kモニタに採用されるコネクタ。

DINコネクタ
 HDルータなどに使用される小型同軸コネクタ。

BNCケーブル
 デジタル信号伝送に欠かせないケーブル。

パッチ盤
 中継車に最適なビデオパッチ盤。

中継用HDカメラ

光カメラケーブル
 ハイビジョン撮影の現場で活躍する光ケーブル。

音響調整卓

マルチケーブルシステム
 業界標準。ステージとPAをつなぐケーブルシステム。

株主メモ

事業年度 毎年1月1日から12月31日まで

定時株主総会 毎年3月

配当の基準日 毎年6月30日および12月31日

株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社

同事務取扱場所 愛知県名古屋市中区栄三丁目15番33号
三井住友信託銀行株式会社
証券代行部
0120-782-031(フリーダイヤル)

同取次窓口 三井住友信託銀行株式会社
本店および全国各支店

住所変更も 証券会社へ

■住所・氏名など届出事項の変更について

証券会社等に口座をお持ちの株主様 … 口座を開設されている証券会社までお問い合わせください。
特別口座をお持ちの株主様 …………… 下記連絡先(三井住友信託銀行証券代行部)までお問い合わせください。
なお、三井住友信託銀行全国各支店にてもお取次ぎします。

■未受領の配当金のお受け取りについて

支払期間経過後の配当金については、三井住友信託銀行までお問い合わせください。

株主名簿管理人・特別口座管理機関へのお問い合わせ

三井住友信託銀行
証券代行部 **0120-782-031** (フリーダイヤル)

カネエ電気株式会社

神奈川県横浜市港北区新横浜2-4-1 新横浜 WNビル4F
TEL.045-470-5503 FAX.045-470-5504

